

傍線部内にある助動詞をすべて□で囲み、その意味用法と活用形を書き、さらに傍線部を訳せ。

仮定・婉曲・連体 「してしまふ ようなことは」^ヨ「したとしたら、それは」

完了・未然 ←

① 思はむ子を法師になしたら むこそ心ぐるしけれ。

打消・連用 過去推量・連体 「満足しなかつたのだろうか」

② あかずやありけむ、二十日の夜の月出づるまでありける。「あく」(満足する)

「ありける」(そこにいた)

意志・連体

断定・終止

「するつもりだ、しようとするのだ」

③ 「義仲は討死をせんずる」なり」(義仲自身のことば)

「退出しましょう」

「泣いているだろう」

意志・終止

現在推量・終止

④ 憶良ら(＝私)は今は「宴会を」まからむ子なくらむそを負ふ母も吾を待つらむそ

「まかる」(退出する)

反実仮想・連体・終止 「うれいだろうか」

⑤ いつはりのなき世なりせばい**か**ばかり人の心のうれし**からまし**

現在の婉曲・連体 「お思いになっている(ような)」

⑥ 「あが仏(＝娘よ)、何事を思ひたまふぞ。思すらむこと何事ぞ」(翁からかぐや姫へのことば)

強意・未然 勧誘・終止 「お聞きになりませんか、聞いてください」

⑦ 「…翁(＝私の)申さむこと聞き給ひて」むや」(同 右)

「染めているのだろうか」

←ヘドウシテ

現在の原因推量・連体

⑧ 白露の色はひとつを(＝なのに)い**か**にして秋の木の葉をちぢに(＝いろんな色に)染むらむ

ためらいの意志・連体・終止 「書いたものだろうか、書こうかしら」

⑨ これになにを**書かまし**。

打消意志・終止 「死なないようにしよう・死ぬことはしないつもりだ・死ぬことはするまい」

⑩ われ、いかでか(＝どうにかして)七月・八月に死に**せじ**。